

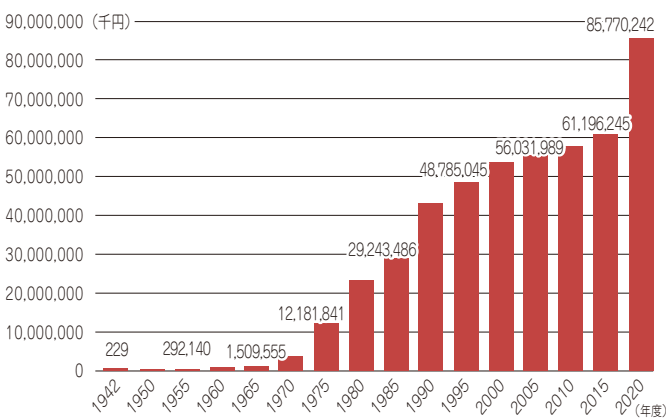
1942(昭和17)年12月1日に誕生し、今年で市制施行80周年を迎える鈴鹿市。80周年にちなみ、このコーナーでは本市の発展を振り返ります。

一般会計歳出決算額の推移

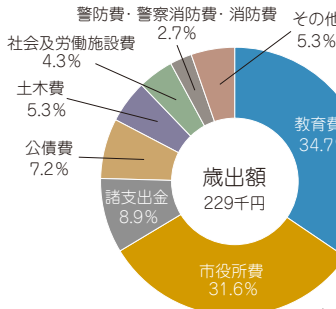
市制施行時の1942(昭和17)年度歳出決算額は、合併の年でもあり、4カ月間の期間であったことから、22万9,396円でした。

終戦後、国によるインフレーションの急激な進展策や、本市における市域の拡大、人口の増加などにより、財政は拡大していきました。2020(令和2)年度の歳出決算額は857億7,024万1,847円に達しています。

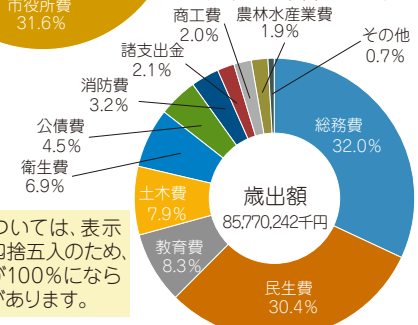
●一般会計歳出決算額



●昭和17年(市制施行年度)歳出割合



●令和2年歳出割合



※構成比については、表示単位未満四捨五入のため、積み上げが100%にならない場合があります。

出典:20年のあゆみ 鈴鹿市統計要覧(令和2年度)



モータースポーツお宝探検隊 vol.14

国内外の2輪・4輪レースで活躍し、多くのファンに親しまれ尊敬されていた“国さん”こと高橋国光さんが3月に逝去されました(享年82)。オールドファンにとっては、1961年のロードレース世界選手権西ドイツGPで「ホンダRC162」を駆り、日本人初の優勝を果たした偉業が忘れられません。勢いそのままに、同年ホンダは2つのクラスで初の世界チャンピオンの座を獲得しました。

当時の鈴鹿市は、本田技研工業株式会社鈴鹿製作所稼働開始から1年。スーパーカブの生産拠点として活気づいており、さらに翌年の開場に向けて鈴鹿サーキットの建設も進められていました。

そんな時代のホンダの挑戦をまとめた冊子が『世界のランキングを求めて』。1961年ロードレース世界選手権の概要を記録した貴重な一冊です。紙面の多くを飾るのは国さんの雄姿や笑顔。その鋭い走りと対照的な温かい人柄がしのばれ、そしてあの熱い時代がよみがえります。



▲当時の高橋国光さん



▲『世界のランキングを求めて』

資料提供:北村勉さん(北江島町 74歳)

■中野能成(鈴鹿モータースポーツ友の会 事務局)

キーボード



皆さんそれぞれ、健康法があると思います。私は、たっぶりの湯船に浸かって「ホッ」と一息つくことです。独り身にはぜいたくなことですが、疲れがとれるので快眠につながります。さらに疲れたときの必須アイテムは入浴剤です。最近、別府温泉の入浴剤を使いました。温泉成分の効果なのかりラックスでき、いつも以上にぐっすり眠れました。

今回の特集では、健康診査を取り上げました。健康診査は病気を早期発見するためにとっても大切ですが、その前に自分でできること。それは、食事・睡眠をしっかりとり、運動をすることです。

そういう私は、エクササイズマシンがクローゼットで埃をかぶっていました。今回の特集を機に、エクササイズマシンで汗をかき、入浴剤を入れたお風呂でリラックスして、自らの健康につなげたいと思います。(晴)